

美術評論家連盟主催・創立60周年記念シンポジウム2014

いま変容と対峙する… 情報と批評／教育と批評

第1部 情報と美術批評をめぐって 池田修／小川敦生／四方幸子 司会―勅使河原純

第2部 教育と美術批評をめぐって 青木正弘／加須屋明子／宮島達男 司会―松本透

2014年11月30日(日) 13時―17時(12時30分開場)

東京国立近代美術館地下1階講堂 先着150名 入場無料



美術評論家連盟はまだ戦後の余韻を残した1954年5月、土方定一会長、富永惣一常任委員長をはじめ今泉篤男、河北倫明、嘉門安雄といった、たくさんの有志の方々によって創設されました。そのとき以来この国の芸術文化のため、時々の美術にしっかりと寄り添い支えるという美術評論の営みが、少しずつしかし確実に築かれていったわけです。

さて、それからの六十年の歩みのなかで、芸術文化のシステムははだいに複雑なものとなり、近年はさらに精緻さを増してきております。美術館でのミュージオロジー、大学でのカリキュラムを中心しつつ造形

表現、空間演出、ワークショップ、アートボランティア、そして情報メディアといった社会全体へと波及していく性格が、ますます大きな広がりを見せています。美術評論家連盟ではこうした近年の動向を踏まえつつ、創立60周年を記念するシンポジウムを開催し、時代の変容の実相を再検討していくことにしました。複雑きまわりない今日の様相を情報、教育、批評という三つのトピックスに絞って、できるだけ詳しく眺めていきたいと思っております。

第1部では「情報と美術批評」というところに焦点を当て、現代の美術を形成する大きな柱の一つである

情報/メディアを、近年の情報革命と呼ばれる社会現象までをも視野に収めながらみていきます。

第2部では「教育と美術批評」に注目し、伝承の装置としての学校や美術館などでの芸術教育などを、主として議論の俎上にのせていきます。そしていずれの場合においても、批評という作用が変容の質を大きく左右していくキーポイントであることに、変わりはないと思います。

どうかひとりでも多くの皆様にご来場いただき、本シンポジウムの議論に積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。

第1部 情報と美術批評をめぐって ▶▶▶ 13:05-14:55

池田修/小川敦生/四方幸子 司会 | 勅使河原純

池田修 [いけだ おさむ]

1957年大阪生まれ。BankART1929・PHスタジオ代表。1984年都市に棲むことをテーマに美術と建築を横断するチームPHスタジオを発足。美術館での展覧会、屋外でのプロジェクト、建築設計等、活動は多岐にわたる。1986-91年ヒルサイドギャラリーディレクター、2004年横浜Bank ARTの立ち上げと運営に携わり、まちづくりやアーティスト支援のプログラム、企画展、出版などを行ってきている。国内外のシンポジウム参加も多い。

小川敦生 [おがわ あつお]

1959年福岡県生まれ。美術ジャーナリスト。東京大学文学部美術史学科卒。日経BP社で「日経エンタテインメント」誌や「日経アート」誌の記者、同誌編集長などを経て日本経済新聞社文化部で美術を担当。「実践美術経済学」(日経アート)「画鬼、河鍋曉斎」「光の旅〜カラヴァッジョ、ラトウール、レンブラント、フェルメール」「藤田嗣治の技法解明〜乳白色の美生んだタルク」(以上、日本経済新聞)など多くの記事を執筆。2014年4月から多摩美術大学芸術学教授。

四方幸子 [しかた ゆきこ]

1958年京都府生まれ。情報環境とアートの関係を横断的に研究。キャンノン・アートラボ(1990-2001)、森美術館(2002-04)、NTT ICC(2004-10)と並行し、フリーのキュレーターとして先見的な展覧会やプロジェクトを数多く実現。2010年より「拡張されたキュレーティング」を提唱。多摩美術大学・東京造形大学客員教授、IAMAS(情報科学芸術大学院大学)非常勤講師、明治大学兼任講師。

勅使河原純 [てしがわら じゅん]

1948年岐阜県生まれ。元世田谷美術館副館長。WEBサイトJT-ART-OFFICE主宰。東北大学文学部美術史学科卒。主な企画展に「ペリクレ・ファツィーニ展」(1990年)、「A.R.ベンク展」(1997年)など。主な著書に「菱田春草とその時代」(六藝書房)、「裸体画の黎明」(日本経済新聞社)、「美術館からの逃走」(現代企画室)、「PARCOURS」(Frac, BASSE-NORMANDIE、共著)、「アフター・アート」(スカイア)などがある。

休憩

第2部 教育と美術批評をめぐって ▶▶▶ 15:00-16:55

青木正弘/加須屋明子/宮島達男 司会 | 松本透

青木正弘 [あおき まさひろ]

1947年岐阜県生まれ。元豊田市美術館副館長。1971年京都市立芸術大学彫刻科卒。1972-84年、1991-92年岐阜県立高等学校美術教師。1984-91年岐阜県美術館学芸員、1992-08年豊田市美術館学芸員。主な展覧会企画:「李禹煥展——感性と論理の軌跡」(1988年)、「20世紀イタリア具象彫刻展——創造のダイナミズム」(1988年)、「現代美術〈日本の心〉展」(1991年)、「ASIANAもの派(ヴェネツィア)」(1995年)、「黒田辰秋展」(2000年)、「宥密法」(2003年)、「イン・ペッド[生命の美術]」(2004年)、「宇宙御絵図」(2007年)。

加須屋明子 [かすや あきこ]

1963年兵庫県生まれ。京都市立芸術大学美術学部准教授。国立国際美術館学芸課主任研究員を経て現職。専門は近・現代美術、美学。主な展覧会企画は「芸術と環境」(1998年)、「いま、話そう」(2002年)、「転換期の作法」(2005年)、「龍野アートプロジェクト」(2011-14年)など。主な著書は「中欧のモダン・アート」(彰流社、2013年、共著)、「ポーランドの前衛美術」(創社、2014年)など。

宮島達男 [みやじま たつお]

現代美術家。京都造形芸術大学/東北芸術工科大学 両副学長。1986年東京芸術大学大学院修了。1988年ヴェネツィア・ビエンナーレ、新人部門に招待され、デジタル数字の作品で国際的な評価を得る。以来、国内外で数多くの発表をする。1993年ジュネーブ大学コンペティション優賞、1998年ロンドン・インスティテュート名誉博士。代表作に「メガ・デス」、「カウンター・ヴォイド」など。また、被爆した柿の木2世を世界の子どもたちに育ててもらう活動、「時の蘇生・柿の木プロジェクト」も推進する。

松本透 [まつもと とおる]

1955年東京生まれ。1980年京都大学文学研究科大学院修士課程修了。同年より東京国立近代美術館に勤務、現在副館長。担当した展覧会として「現代美術における写真」展(1985年)、「色彩とモノクローム」展(1989年)、「村岡三郎展」(1997年)、「草間弥生展」(2003年)、「アジアのキュビズム」展(2005年)など。編著書に「日本近現代美術史事典」(2007年)、訳書に「S.リングボム『カンディンスキー——抽象絵画と神秘思想』(1995年)など。

全体まとめ ▶▶▶ 16:50-16:55 勅使河原純

【お申し込み方法】

お名前、ご住所、電話番号を明記して、メールまたはファックスにてお申し込みください。件名に「シンポジウム2014申し込み」と必ず明記してください。定員(150名)になり次第、申し込み受付を終了させていただきます。メールには必ず返信を致しますので、何かのトラブルで事務局からの返信が確認されない場合は、ご面倒でも連絡をいただけたらと思います。

申し込み・問い合わせ先 | 美術評論家連盟事務局 小林季記子

メール | aica.jp@dream.com

ファックス | 03-3626-7528(8:00-20:00受付)

URL | <http://www.aicajapan.com/>

主催 | 美術評論家連盟

企画 | 美術評論家連盟シンポジウム実行委員会(実行委員長 勅使河原純、青木正弘、

小川敦生、沢山遼、松本透

東京国立近代美術館 地下1階 講堂

〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1 <http://www.momat.go.jp>

東京メトロ東西線 竹橋駅1b出口 徒歩3分

